

ふたばっ子とともに

R5. 7. 12

5月の末から4年生の子供たちが挑戦している「オクラ」の世話。その動きにヒントを得て、私が、6月上旬に「花や野菜を育てませんか」と子供たちに投げ掛けたところ、複数のグループが花や野菜を育てる活動に取り組み始めました。(5/31 双葉小ブログ「次の『やりたいこと』の種から芽が出ました！」参照) オクラの「今」と子供たちの取組の様子についてお伝えします。

「やりたいこと」に挑戦する③～花や野菜を育てよう～

まずは、この活動のスタートとなった「オクラ」。

随分と成長して、最近では「花」が咲き、「実」もなり始めました。

時々、水をやり忘れていた時があるのですが、プレートを見ると、わたしも「栽培者」の一人に加わっているの、土が乾いている時には水やりをしています。



そして、この取組にヒントを得てスタートした「花や野菜を育ててみようプロジェクト」(私が勝手に名付けました)。

子供たちは、学習の中で「アサガオ」や「野菜」などを育て、植物の成長の様子や自然の不思議について学んでいます。そして、その学びを生かしながら、また、自らの学びと並行して、この活動に取り組んでいます。

それぞれのプランターにまいた種は、芽を出し、葉を茂らせ、茎を伸ばし…と、とても大きく成長しました。百日草は、花が咲き始めました。

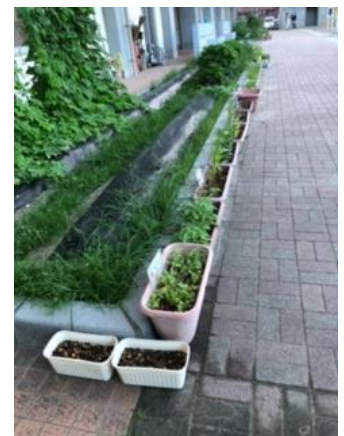


この活動は、子供たちの「やりたい。花を育ててみたい」からスタートしました。ひと月余りの子供たちの様子を見てみると…朝、登校すると水やりをしている子、休み時間に様子を見にくる子、帰りにたっぷりと水を掛けて帰る子など、自分が育てている植物との向き合い方は様々でした。

ただ、この取組には、クラスの学習で植物を育てるのは、大きな違いがあります。それは「みんなで一緒に活動をしていない」ということです。ですから、友達が、アサガオへ水やりに行っている姿を見て、自分も…と気付いたり、周りの子が、できた野菜の実を嬉しそうに見せてくれたことで、自分の育てている野菜の実がいつできるのかを楽しみにしたり、ということはありません。

全ては、「わたし(自分)」の責任です。(でも、どのプランターも2、3人の友達が集まり、グループとして取り組んでいるので、一人でという形はありませんが。)

水やり、害虫退治、草取り…どの作業も、わたし(自分たち)がしなければ、せっかく育ち始めた苗がダメになってしまいます。そうした中、さすが「やりたい」と動いた子供たちだけに、どのグループも手を抜くことなく世話を続け、どのグループでもとても大きく育てられてきました。



そして、もう一つ。この取組に参加している子供たちに、とても素敵な行動を見ることができました。

それは、水やりの時のことです。自分たちでまいた種を自分たちで育てていくのですから、基本的に水やりは自分たちのプランターだけにすればよいはずですが。

でも、子供たちは、自分の苗に水かけをした後で、余った水を隣のプランターの苗にかけてあげたり、わざわざ2度、3度とジョウロに水を入れ直して、置かれた全てのプランターにたっぷりとかけてあげたりしていました。

この活動を通して、「自分だけ」ではなく「ともに育てる仲間」のために「思いやり」をそうした行動で表す「ふたばっ子」の温かな心や優しい気持ちを感じることができ、とても嬉しくなりました。

夏休みまで残り2週間足らず。夏のまぶしい日差しを浴びて、子供たちの優しさと愛がたくさん注がれた素敵な花が咲きそろうのを楽しみにしています。

わたしは、「校長通信 5/23『やりたいこと』に挑戦する① ～オクラの種まき～」の中で、次のように書きました。

女の子たちが起こしたアクションで、男の子たちの心が動きました。これが、今年度大切にしていきたいと考えている、「ひと」が「ひと」とつながり、「こと」が「こと」を生み出しつながっていくという様々な「つながり」です。

おそらく、この「オクラの種まき」は、「ひと・もの・こと」のどれかで、また、どこかに、次の「つながり」を生み出し発展していくことでしょう。

新たに「やりたいこと」を見つけ、挑戦する子供たちが、次々に現れることと、「ひと・もの・こと」の連鎖的なつながりとその広がりが、様々な形で見られることを、今後も楽しみにしていきたいと思えます。

4年生の「オクラの種まき」は、私の心を動かしました。そして、「花や野菜を育てようプロジェクト」が生まれ、それによって行動を起こす子供たちが現れました。

花や野菜を育て始めた子供たちのグループ同士は、お互いの花や野菜を大切に思う心がつながり、水やりを「自分たちだけのプランター」に限定せず、全ての苗を世話をあげようになりました。

日に日に成長していく花を見て考えたのでしょうか。最近では、少し余裕のできた6年生が「わたしたちもやりたい」と、種をまき栽培を始めました。(1学期末までに少し時間が足りないのは気がかりですが…)



このように、子供たちの「やりたい」という思いから始まった一つの活動が、様々な「ひと・もの・こと」をつなげて広がることを、改めて確かめることができました。

今後も、ふたばっ子が「やりたい」を探し、見つけ、勇気をもってそれに挑戦できる双葉小を目指していきたいと思えます。